

「日々の理科」(第 3006 号) 2022, 10, 30

「秋の東北鉄道旅行 (10)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

弘前の方は、誰もが弘前城を見ることを勧めてくれます。徒歩では弘前駅から弘前城まで 30 以上かかるので、「乗り鉄専科」の今回の旅行では難しい。



こんな便利なバスも走っている。「え、百えーん!？」と驚き、乗ってみたいとも思った。しかし、その土地に不案内な旅行者によっては、路線バスは時刻や停留所の位置がよくわからず、かなりよく調べておかないと利用すづらい。行ったはよかったが、帰りのバスが間遠で、あわててタクシーを拾う、なんてこともよくある。今回は貸自転車で正解だった。自転車だと好きな場所で停まれるし、「走った時間+α」を残して引き返せば良いので、列車に乗り遅れる心配もない。



弘前城址には入口がいくつかあるが、私は駅で教えられた通り、東側の門から入った。これは「二の丸東門」という櫓門の一種で、風格のある立派な門である。



弘前城址の公園は、実に広々としていて、庭園の手入れもゆきとどいていた。この日は土曜日で、混んでいたから自転車を押して歩こうと思っていたが、案外空いていて、自転車で走り回っても安全だった。



お堀も美しい。木の船が繋がって浮かべられていた。何か積んであるが、どういう意味があるのかよくわからなかった。



紅葉にはまだ少し早かったが、少し色づいた木々を見ることはできた。この日は次に乗る列車が決まっていたので、天守までは行けなかった。次回の旅行に楽しみをとっておくのも、またいいだろう。